Prompt 2006
大仙市教育研究所報 プロンプト 第2号 2月28日発行

21世紀の主役達のために

教育委員長 信田 健

大仙市教育研究所報「プロンプト」2号発行にあたり、先ず以て、教育関係者の皆様をはじめ教育行政に携わっております職員の皆様に紙上からではございますが、平素からの教育委員会へのご理解ご協力に対しまして心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

今年は昭和48年以来の豪雪に閉口の毎日が続きました。古来より蟷螂(カマキリ)の卵が高い枝で見付かるか、又、霜の降りるのが少ない年は積雪が多いとか言い伝えられております。卵の確認は定かでありませんが、霜についてはなるほどと思い当たります。更に大雪に飢渇(ケカチ)無しとも言われていることから誠、豊作の年であって欲しいものです。厳冬であればあるほど素晴らしき春の到来が待たれる昨今です。

さて、大仙市が誕生して早一年を経過しようとしております。教育行政のマスタープラン造りの礎となるべく「学校応援訪問」や種々の会議、機会等を通じて出来るだけの現状把握に努めてまいりましたが、その幅や深さはとても大きく、まして細部迄ともなれば私自身充分に熟知していないのが実情です。学校訪問は都合上、全ての学校を訪問出来ませんでしたが、感嘆したのは、訪問校いずれの学校でも当地の文化と伝統に根ざした教育を重要視して、地域の特徴が滲み出る教育がなされている点でした。この事は人間形成の過程で非常に大切で意義深く感じました。また印象に残るのは子供達の円らな瞳の輝きです。

やがて進級進学し高い理想を胸に歩み続ける子供達。世界の人口は約64億人、その中で顔や形、声や考え方が似ている人は居ても同一人物は居ないことを思えば、子供は正に大事な国の宝であり、明日を担う21世紀の主役達です。訪問を通じてますます適宜な教育をとの意を強くした次第です。

昭和22年教育基本法が制定されて以来教育の理念、目的は変わらず一貫して今日に至っておりますが、戦後60年を経過し他方では国の制度や一部の疲弊により、社会問題や課題が露呈し、マスコミ等で連日報じられ、国では改革の名の下、様々な施策を講じ解決や克服を図っています。教育でも近年改革が求められ、最近では県内でも教職員の新評価システムの導入や、市町村教育委員会の人事面の権限強化策等はその一環としてとらえたい。

然しながら国家百年の大計からすれば表現が好ましくありませんが、教育効果の即効薬は余り見当たりません。ここはじっくり腰を据えた着実な歩みの教育のありかたが肝要かと思います。これからも従前通り家庭、学校、社会の連携を更に強固にするのは勿論ですが、行政面に於いても市長部局、議会との連絡協調の下、各年代層の要請に応え新たな観点から、家庭教育、学校教育、社会教育等各分野の広範な教育、学習の体制や機会を整備するよう目指す等、高揚発展のために邁進致したく思いますので、今後共ご理解ご協力を重ねてお願い致します。

軌道

事業一覧（9月～3月） 大仙市教育研究所 所管

9月28日(水)	理科研究発表会
10月19日(水)	第1回大仙市教頭会
11月17日(木)	社会科研究発表会
11月30日(水)	初任研修Ⅳ
12月 2日(金)	平成18年度学習定着度調査作成委員会
1月10日(火)	第3回大仙市校長会
1月11日(水)	初任研修Ⅴ
1月25日(水)	第2回大仙市教頭会
3月下旬	大仙市社会科副読本ホームページ及び大仙市小・中学校用社会科地図完成（予定） 平成18年度学習定着度調査用紙完成

活動の広がり

大仙市立中仙中学校 校長　藤 峯 尉一郎

私たちは、これぞと思うねらいを持ち、教育活動を進めている。ところが、進めた結果に２つの状態がよく見られる。ひとつは、ねらいを十分達成し、めでたし、めでたしで終え、次の活動を考える。逆にあってはならないが、時には不十分のまま、何らかの理由をつけて終焉の道を辿る。もうひとつは、ねらいの達成とともに、新たな価値もしくは効果が見られ、二重の達成感を味わえるときがあることである。

今、県の中学校校長会の特別委員会で、「開かれた学校」という課題で調査研究を進めているところである。そこで、本郡市では「広がり」をキーワードにして、実践活動を吟味、追及しているところである。すなわち、「学校を内にも、外にも開く」活動である。『聞き書き学習』『外部評価』『親報の発行』『街の先生と語る会』『地域から学ぶ総合的な学習の時間』『小中児童生徒合同学友区活動」『人々とI（アイ）ラブドッ缶』など、多様な活動がなされ、人と関わる力や課題を追求する力、生き方を見つめる力など多くの成果をあげている。今回はこの活動に対し、「広がり」という視点をあて追求している。

活動は大きく、A：生徒が学校を出て、地域等で活動する。B：保護者や地域の方々が学校へ来て、生徒と共に活動をする。C：学校と保護者又は地域との双方向の営みで生徒を媒介としない活動の３つに分類される。これらA、B、Cにおける「広がり」を見ると、Aは生徒の内面の広がりや社会性の向上を引き起こしながら、地域や保護者の方々の生徒や学校を見る広がりを生徒を通し受けている場合が多々見られる。逆に、Bは新たな見方の発見や自分を見つめなおす機会とはなるが、地域や保護者の学校への理解への広がりは薄い。来た方のみの広がりになりがちである。同様に、Cは、アンケートや広報活動による場合が多く、意思疎通にかける面が見られた。

すなわち、広がりの大きい活動は、生徒の活動が学校から外に向かう活動であるといえる。地域や保護者の方々との関わりをもつことにより、活動での触れあいに加えて大きな学校理解への場と広がる可能性をもっている。私たちの活動はすべてある意味を持ちながらやっているわけであるが、より広がりを期待される活動を選択し、学校の活動を吟味することも大切ではないかと思うこの頃である。

今だからこそ、できることは?!

大仙市立南外西小学校 教頭　鈴 木　秀

小泉内閣の行財政改革により「三位一体」が唱えられている今、大仙市と大仙市教育委員会並びに教育研究所に寄せる期待は大きい。そんな状況下にあって「三位一体」と聞けば「アタック№.１」を思い浮かべてしまう私に何ができるのか？・・・・・・☆○！?。

昨年４月、17年ぶりの小学校生活に期待を抱きながら赴任したものの、ドリームプロジェクト事業で羽後町新成小と交流中。昨年度から文部科学省キャリア教育推進地域指定校となっている。さらに15年度仙教研特別活動研究大会を実施したからだけではないようだが、レインボーガーデン祭り、チャレンジらんど、ハッスル劇場、がんばる像フェスティバル、はなまるウィーク、等々、横文字（カタカナ）が一杯。おまけにトライアルサポート事業まで入って、私の頭は、横文字を同じものと判断してしまうのでパニック（横文字）。

では国語はどうなのか？平成18年度仙教研国語教育研究大会の会場校となっていると聞いて大焦り。結局は語学全般がダメなことがばれて赴任早々意気消沈。どうする？

昭和の大合併の時代には存在していなかった本校も、今年度で開校40周年を迎えた。校舎はだいぶ古くなって大変だが、活き活きとした児童と協力的な保護者や地域の方々で構成され、学区全体に脈々と活力が湧き上がっている個性豊かな学校である。自然の事物・事象に長けた子も多く、科学する心を持ち合わせている。また放課後には、元気にスポ少活動等に励み、心と体を鍛えている。

?！○☆・・・・・そうか、平成の大合併により南外村から大仙市南外となって11ケ月。次第に地域性が薄らぎそうな今だからこそ「特地校」としてより良い在り方を冷静に捉え、自分の机上を整えられない私にできることは、取捨選択（何をするのかは秘密）する力を身に付け、子どもらを取り巻く環境を整え、子どもらの成長を見守ることなのかも！

幼稚園紹介

心のふるさと“おいだらぼっち”

大仙市立かみおか幼稚園園長　田 代 啓 子

朝、元気なあいさつと共に飛び込んでくる子ども達の心は、幼稚園のことでいっぱいです。幼稚園は家庭では味わうことができない遊びや、大好きな友達とのかかわりが待っています。「幼稚園が楽しい」と心の底から感じてほしい。心豊かでたくましく、主体的な子どもに育ってほしい。そんな思いで数年前から、郷土の民話、伝説の大男「おいだらぼっち」を保育に取り入れた活動をしてきました。

世界でひとつしかない絵本づくりに挑戦

平成14年には遠足で家族と共に伝説の地を訪れ、その巨大さに驚いたり豊かな自然を体感したりして、おいだらぼっちの口頭伝承の素話を基に大型紙芝居の制作をしました。

次年度には教師が工夫して作ったおいだらぼっちの、園児にあてた手紙に始まり、それに対して園児の返事のやりとり。活動は輪となって循環してきました。今年度神岡地区を会場に行われた「ちびっこ県民交流会」では、素話に子ども達の考えた話を加え、ペープサート（紙人形劇）と打楽器、手作り楽器を組み合わせ、読み手や人形操作を一人一役で発表したがんばりが大きな自信につながったのでした。

「ここがおもしろいね」１年生の兄さん、姉さんが作ってくれた創作大型絵本

そして、現在の１年生が在園中に取り組んだ創作大型絵本が刺激となり、新たな自分の絵本づくりへと向かいました。「おいだらぼっちは嶽山より大きいんだよ」「頭はもじゃもじゃで小鳥が巣をくんでいるんだ。小鳥を描くのはむずかしいな」などと話ながら、認め合い、教え合って作る世界でひとつしかない絵本が、年長児の卒園記念作品として完成するのも間近です。

緑いっぱいの野山を駆け回るおいだらぼっちへの想像と空想を膨らませ、心の中で対話しながら描いた自分だけの絵本。これは大人になっても心のふるさととしてよみがえることでしょう。

絵本づくりは価値ある活動として今後も続けたいと思っています。

学校紹介

私の大好きな学校

大仙市立大川西根小学校6年　佐々木 晴 菜

大川西根小学校は、全国的にもめずらしいパイプオルガンのある学校です。毎年12月にパイプオルガンコンサートがあり、すばらしい演奏者をお招きして、みんなとても楽しく充実した時間を過ごしています。そして、一番の特色は全校児童で行う全校音楽とオリジナルミュージカルです。ミュージカルは、６年生がストーリーを考えて台本を作ります。また、場面ごとの歌の作詞や作曲、ダンスのふりつけも高学年が中心となり作っていきます。全校音楽では、６年生が先に立ち、４・５年生に演奏の仕方を教え、伝えていく方法をとっています。１・２年生はピアニカ、３年生はリコーダーを演奏していますが、ここでも上の学年がていねいに教えていきます。このようにして昭和36年から受けつがれてきた全校音楽の伝統を私達は守りながらいろいろな音楽にふれることを楽しんでいます。

しかし、楽しく演奏するために、毎日の練習は欠かせません。新しい曲を各楽器が自分のパートを完璧に演奏できるようにがんばるのですが、なかなか上手になりません。それでもあきらめず練習して、できるようになった時の喜びと達成感は何物にもかえがたいものです。そして次へチャレンジしようという気持ちを生み出してくれるし、忘れられない思い出になるのです。

全校音楽やミュージカルは、学年にとらわれることなく、進められる活動ですが、そのことを生かし『たッピー』（縦割でハッピーの略）という全校縦割班があり、いろいろな活動をしています。プランターに花を植えて校庭をかざったり、サツマイモを育てたり、近くの町へ冒険の旅へ出かけたりもします。

そして、私達は音楽だけではなく、勉強やスポーツもがんばっています。今年全校で、漢字の書き取りや詩の暗唱、百マス計算をがんばりました。家庭学習にも力を入れてきました。また、バスケットボールや野球のスポ少活動も積極的に取り組んでいます。

私は、このような活動を通して学んだ、あきらめずにやりとげる事の大切さ、できた時の達成感や満足感、いろいろな事にチャレンジしようとする前向きな気持ちをこれからも大切にしていきたいと思います。

私は、こんな大川西根小学校が大好きです。

初任者研修を終えて

大仙市立太田中学校 教諭　杉 渕 茂 和

17年度、大仙市に採用された初任者は私一人でした。わずか一人のため、初任者研修を開催してくださいました、大仙市教育研究所の方々や研修の場を提供してくださった学校や企業の方々に感謝しています。こうして教壇に立っていられるのも、ご指導していただき、支えられ励まされたおかげだと思っています。

初回の研修となる教育懇談会では、毛利教育次長と佐藤学校教育課長の講話でした。そこでは、多くのことを生徒に求めずに、指導すべき内容を絞り込むことが大切だということや、教員として大切なことは「指導技術」と「子供への思い・愛」で、両方がそろっていないといい指導はできないということを教わりました。

２回目は、大仙美郷クリーンセンター、太田学校給食センター、太田総合支所太田分室、県立農業科学館の施設見学でした。大仙市の学校に赴任してまだ１ヵ月しかたっていなかったので、地域の実情を知る絶好の機会になりました。

３回目は山の手ホテルでの企業研修でした。ホテルで働く人達は、お客様のことを第一に考えて働いていることがわかり、自分も生徒のことを第一に考え、指導に当たらなければいけないという気持ちを強くしました。

４回目は異校種交流として、美郷町千畑幼児教育センター「なかよし園」と美郷町立千屋小学校で研修しました。幼保一体運営のメリット、保護者の願いをくんだ安心・安全への気配り、子どもの意欲・関心を引き出すためのテクニックは自分もまねをしなければいけないと感じました。

５回目は、介護予防デイサービスいきいきサロンえみのくちに行き福祉活動体験をしました。介護予防の在り方を知り、健康が大切だということを改めて認識しました。

５回という少ない研修の機会でしたが、県教育センターや南教育事務所が実施する研修と違い、地域に密着していて素晴らしい研修ばかりでした。これまでの研修を糧にし、期待にこたえられるように頑張っていきます。本当にありがとうございました。

平成17年度 大仙市中学生海外派遣事業　～オーストラリア研修～

初めての海外、初めてのホームスティ

大仙市立仙北中学校 ３年　原　沙也加

私の初めての海外旅行は、親元離れてのホームスティ。最初は、友達がちゃんとつくれるか、私の英語が通じるかなどの不安でいっぱいでした。それでも初めて海外に行けるという期待のほうがはるかに強く、「英語が通じないのも勉強だ！あっちで思いっきり学んで来よう！」と出発前には思えるようになっていました。

オーストラリアではいろんなところに行かせてもらいましたが、すごく心に残っているのがファームでの体験や知識です。乗馬やブーメランを投げるのも初めてでしたし、乗馬では普通のときより目線が高くなるので、とてもよく景色を見ることができました。見渡す限りファームの広い敷地内で、そこから見る果てしなく続く青い空や広い草原、のびのび暮らしている動物達など…。あの風景はあのときあの場所でしか見ることが出来ないはずです。

しかし、やはり一番心に残っているのは、ホストファミリーと過ごした事。外国の家に泊まるなんて初めてのことだらけですごく心配していたのですが、お父さんもお母さんもすごく優しくておもしろい方々だったので、安心して過ごすことが出来ました。お兄さんのほうはジョークが大好きで振り回されてばかりだったけど、すごく思いやりもある人でしたし、弟も私達のためにゆっくりと話してくれたし一緒に遊ぶ事もできました。

そのほかにもオーストラリアの学校訪問や、オペラハウスや水族館を見に行くことができて、そのたびに日本と違うところがあってびっくりしまくりでした。ほかの学校の人達とも仲良くすることが出来たし、英語もそれなりに通じ、この先の学校生活や受験勉強への大きな自信となりました。大仙市の代表として、仙北中学校の代表として一生懸命学んでくる事ができたと思います。

最後にこのようなチャンスを与えてくださった先生方や大仙市の方々、旅行会社の方々、そして家族には心から感謝しています。本当にありがとうございました。